

神戸大学における国際交流活動の概要と アジア太平洋地域における国際連携教育について

神戸大学副学長 真山 滋志

1. 神戸大学の概要

国際都市神戸に位置する神戸大学は「異文化との交流」を重視する国際性豊かな総合大学である。1902年に高等教育機関として設置された神戸高等商業学校を開学の起点とし、100年をこえる歴史のなかで、「真摯・自由・協同」の精神を発揮し、卓越した研究と教育を使命としている。神戸大学は「人文・人間科学系」「社会科学系」「自然科学系」「生命・医学系」の4学術系列の下に11の学部、9の大学院（2007年4月より12に拡大）、1研究所と多数の研究教育センターを有している。学生数は学部・大学院を合わせ約18000名、その内、海外からの留学生は約1000名である。教員は1415名、職員は1365名の規模である。

2. 国際交流活動の概要

(1) 基本戦略

神戸大学における国際戦略の基本方針は、北米、ヨーロッパ、アジアの地域的なバランスを考慮しながら、大学の研究・教育が効果的に国際的連携を深め、卓越した研究教育の拠点となることを目指している。神戸大学は、研究教育における国際競争力を高め、世界に誇れる「神戸大学ブランド」の確立を目指すため、以下の4つの基本的な国際戦略を推進している。

1. 神戸大学が有する優れた研究分野の国際的強化：先端的研究の国際展開と総合研究による地球規模問題への国際貢献を図る。

2. 国際的人材の育成と国際標準化した教育体制の整備：高度な国際的資質を備えた人材育成と質を重視した留学生教育を促進する。
3. 地域の特性に応じた研究教育連携の展開：米国・ヨーロッパ・アジアなどの地域に応じた戦略を展開する。
4. 国際連携を機動的に推進するための組織改革：高度な国際業務機能を有する支援組織体制を整備する。

(2) 国際交流推進本部の設置

神戸大学は 2005 年 7 月 1 日に国際交流推進本部を設置し、国際的な連携及び交流活動を戦略的に展開する体制を整備した。この国際交流推進本部は、文部科学省が公募した「大学国際戦略本部強化事業」に採択されて設置されたもので、文科省より運営経費が措置されている（5 年間）。

国際交流推進本部は、神戸大学の国際的連携・交流に関する戦略・企画を立案するとともに、国際交流業務の効率的な運営や人材の質及び量の両面で改善・向上を図ることを目的とし、神戸大学が国際的に卓越した高度な学術研究教育拠点となることを目標とする。

国際交流推進本部は、本部長・副本部長とともに、14 人の教員及び 9 人の職員及び交流コーディネーターによる本部企画員で組織される。本部企画員は、研究・教育・協力の国際交流に関する 3 つのプロジェクトチームに属し、学内関係者の協力を得て、国際交流連携に関する方針の策定、重点研究拠点大学の選定、学生の派遣・留学生の受入に関する方針の策定、EUIJ 関西の推進、神戸大学ウィークの推進、海外重点協力大学との相互オフィスの運営などを国際戦略構想に基づき実施する。

(3) 学術交流協定

神戸大学が海外の大学などの研究機関と締結している学術交流協定は、年々増加傾向にあり、2000 年に大学間協定と部局間協定の合計は 96 件であったが、2005 年には 173 件に増加している。2005 年には、大学間協定が 64 件、部局間協定が 109 であり、地域別比率としては、アジア、ヨーロッパ、北米が大部分を占めている。

こうした学術交流協定に基づき、相互授業料不徴収の形での学生の交流（基本的に 1 年）は世界各国となされ、近年、派遣は 40 名前後、受入は 50 名前後で推移している。神戸大学の場合、派遣、受入ともヨーロッパの大学との交流がもっとも多く、次いでア

ジア諸国となっている。(留学に関しては、学術交流協定に基づかない形で極めて多くの院生・学生が留学していると考えられるが正確な数は把握していない。)

一方、研究者の派遣と受入数は、学術交流協定に基づく場合と基づかない場合を含め、2004年度には長期・短期を含む全学での受入は402名、派遣が1723名となっている。受入に関しては、米国から64名、次いで中国から53名となっている。派遣に関しては、米国に398名、次いで中国へ206名となっているが、年々増加する傾向にある。

(4) 留学生

神戸大学へ留学生の数は一貫して拡大を続けている。1980年には全学で95名であったが、2005年には963名となった。963名のうち、大学院生が645名、学部生が105名、研究生が213名である。地域別にはアジア(838名)、ヨーロッパ(59名)、北米(20名)、南アメリカ(25名)となっている。このうち、中国からの留学生は453名である。(中国からの学位取得課程に在籍する私費留学生327名のうち奨学金受給率は約70%である。)

(5) 代表的な国際研究・教育プロジェクト

(研究)

- ・ 糖尿病をモデルとしたシグナル伝達病拠点 (Univ. of Washington 他)
- ・ 惑星系の起源と進化 (NASA 他)
- ・ 安全と共生のための都市空間デザイン戦略 (Univ. of Washington 他)
- ・ 動態化する法と社会: 市場グローバル化と法秩序の再構築 (UC Berkeley 他)
- ・ グローバル競争時代のマネジメント人材教育と国際コラボレーション (北京大学他)
- ・ 新しい日本型経済パラダイムの研究教育拠点 (Yale University 他)
- ・ 脂質メッセンジャーによる情報伝達機構 (The Univ. of Illinois 他)
- ・ 海上輸送の安全と環境保全に資する海技 (Dallan Fisheries Univ. 他)
- ・ 国際貿易の新次元 (Univ. of New South Wales 他)
- ・ 食の安全と環境保全に向けたアジア連携 (Univ. of Philippines 他)

(教育)

- ・ インドネシア大学等との博士前期課程のデュアル・ディグリー・プログラム
- ・ 国際研究協力科、自然科学研究科、医学研究科で英語コース等の設置により外国語

による授業、発表の機会を与えている。

(6) EUIJ Kansai (EU Institute in Japan, Kansai)

EUIJ 関西とは、EU(欧州連合)に関する学術研究拠点の促進、教育・広報活動の推進、および日・EU関係の強化を目的として、2005年4月1日、EUの資金援助により、神戸大学・関西学院大学・大阪大学からなるコンソーシアムとして設立されたもので、今後の3大学のヨーロッパとの学術教育の交流に大きな役割を果たすと期待されている。

EUIJ 関西の活動として、(1)3大学間で単位互換されるEUコース(学部、大学院)の実施、(2)欧州学術機関との交流推進、学生に対する奨学金制度の創設、客員教授などの招聘、共同研究の推進、EU関連セミナー、学術講演、国際学術会議などの開催、(3)駐日欧州委員会代表部との連携により、EU情報を収集し、ニューズレターの発行、EUIJ 関西WEBサイトを開設など、ITを活用した有益な情報発信、(4)EUの制度、EU加盟国の経済・社会・文化などに関して、一般向けに専門家がわかりやすく興味深い講義を提供する公開講座、実務家向けプロフェッショナルセミナーなどのアウトリーチ活動、(5)関西に拠点を置いたEU加盟国総領事館、EU加盟国文化団体などと連携した、日本とEUの間での多面的な国際交流活動、などがある。

すでに神戸大学では、EUIJを通じて、ヨーロッパ諸国との学術的な交流活動が始まっており、新たな交流協定の締結や研究プロジェクトが組織されている。

3. 中国との国際交流活動

3-1. 神戸大学と中国の大学・研究機関との近年の代表的交流活動

1. 現時点で、中国の大学との間で、13の大学間学術交流協定(復旦大学、北京大学、西安交通大学、山東大学、華東師範大学、上海海事大学、中国人民大学、中国農業大学、中山大学、北京師範大学)、6つの部局間協定(江南大学、中国政法大学、中国地質大学、中国地質科学院、天津大学、中南林学院資源環境大学)が締結されている。浙江大学とは合意済みである。
2. 神戸大学経営学研究科・中国コラボレーションセンター主催、中華人民共和国商務部・研究院外資研究部共催による「国際M&A時代のコーポレート・ガバナンス(企業統治)」日中シンポジウム。2005年10月25日、長富宮飯店。

3. 神戸大学経済学研究科と山東大学との国際学術研究討論会
 - (1)「日中経済貿易関係と産業発展について」於：中国山東大学、2003年10月18日
 - (2)「日中経済関係の深化と経済構造の調整」於：神戸大学、2004年11月6日
 - (3)「日中経済傍系関係および東アジア経済一体化」於：中国山東大学、2005年
 - (4)「グローバル化のなかでの産業構造変化と所得格差」於：神戸大学、2006年
4. 神戸大学経済学研究科と四川科院・四川大学との国際学術研究討論会
「全球化：与中国内陸区域経済発展」於：都江堰、2004年9月14日～15日
5. 経営学研究科による国際協力銀行委託契約「中国内陸部人材育成事業」。企業管理人材（MBA）教育方式をテーマにした「中国内陸部人材育成事業」特設研修コース開発に係る提案型調査を受託し、中国の内陸部地域のMBA教育水準を引き上げに寄与することを目的とする。対象者は、中国内陸部の19省・市・自治区の大学の経済学院・管理学院・商学院の管理職および学術リーダーとなる教員。
6. 文科省の大学教育国際化推進事業（戦略的国際連携支援）受託による「アジア農業戦略に資する国際連携教育の推進」プログラムの実施。このため、国際交流協定を締結しているアジア諸国（中国、ベトナム、フィリピン、韓国）の拠点大学と本学が密接な教職員コンソーシアムを形成して実施する。中国からは中国農業大学が参加する。
7. 2003年12月に法学研究科COE国際シンポジウムのために、中国政法大学元学長、民法起草委員江平教授を招聘し、「中国における市場化と民法典編纂」というテーマの講演会を開催した。
8. 中国以外、唯一神戸にある孫中山記念館の役員を神戸大学教員が中心に構成し、神戸の華僑社会等を研究している。この役員達を中心となって、2007年に神戸で開催される第7回世界華商大会を実施する。
9. 西安交通大学で2006年5月に開催された「第3回中日大学長会議」に参加。

3-2. 神戸大学「東アジア Week 2006」の開催

神戸大学では、本学からの国際学術文化交流の活動推進と情報発信を目的に、毎年秋期の1週間を神戸大学 Week と設定し、2003年より各種行事を開催してきた。これまで、EU Week 2003、ASEAN Week 2004、EU Week 2005 を開催し、各テーマに沿った国際交流

の活動推進を学内・学外に対し実施している。本年は、政治・経済・学術・文化において、歴史的に密接な関係にある東アジア地域との国際交流を取り上げ、「神戸大学東アジア Week 2006～東アジア 共鳴と共生～」を2006年11月13日から17日の日程で開催した。

東アジア諸国の経済発展により、我が国においてパートナーとしての重要性は益々増大しつつある。また、従来からの文化的交流に加え、グローバル化の中で改めて見出される文化的共通性の認識が高まる中、より深い相互理解が求められている。東アジアとの学術及び文化交流を積極的に推進し、研究、教育における更なる連携強化に向けた新たな地平を拓くべく、市民、学生、研究者を対象として、東アジアに関する研究及び地域産業をテーマとする本学の独自企画行事を実施した。

4. アジア太平洋地域における神戸大学の国際連携教育の事例

－アジア農業戦略に資する国際連携教育の推進－

4-1. 神戸大学のアジア太平洋地域における国際連携教育の事例

神戸大学では、アジア地域を一つの重点地域とし、地球規模問題における教育研究活動を支援するとともに、世界において活躍しうる人材・研究者の育成をめざし、海外の協力拠点大学との人的交流の強化と国際的教育プログラムの推進によって、教育の世界標準化を進めることを目標としている。

本事業「アジア農業戦略に資する国際連携教育の推進」は、東アジア地域における知的創造に貢献するとともに、教育の国際的連携に資する一つの事例として意義を有しており、また、食料の安全保障、地球環境保全、公衆衛生などを通じて地域の経済発展に貢献する可能性を有していることから、本日の中学長会議のテーマに関連するケースとして紹介したい。

本事業は、神戸大学が目指す「国際性豊かな知の生命体」の理念を東南及び東アジア地域で具現化するものであり、文部科学省が2005年度から開始した「大学教育の国際化推進プログラム（戦略的国際連携支援）」に採択された事業であり、2008年度まで継続が予定されている。国立大学法人63大学の応募の中から、東京大学や大阪大学などの7大学とともに採択されたものである。採択された理由として、以下のような特徴があげられる。

この取組みは、アジア農業戦略の立案と推進に貢献できる人材を育成するために、神

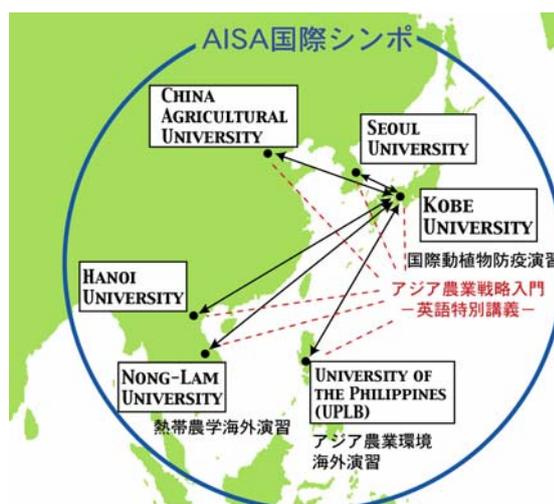
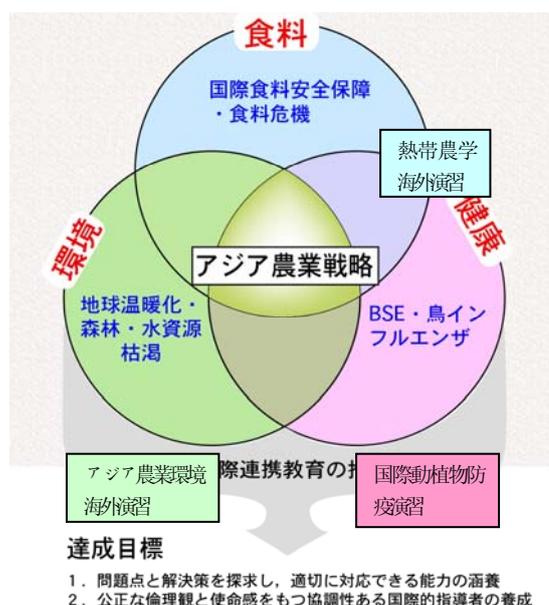
戸大学農学部・農学研究科がアジアの諸大学とコンソーシアムを形成し、国際的に共同した学士課程（学部レベル）での教育カリキュラムを開発・実施するものである。1・2年次での基礎的講義を行った後、英語による特別講義を導入し、海外の連携大学のリソースを活用する演習科目を提供し、4年次の段階で、海外における「国際インターンシップ・プログラム」を実施するというシークエンスの高い共同教育プログラムである。とりわけいくつかの「演習」科目では、テレビ会議システムを活用して相方の学生と一緒に学べる環境が用意されることで、より一層国際性の高い人材育成が意図されている。

4-2. 「アジア農業戦略に資する国際連携教育の推進」事業の目標

本取組みの目標は、①食料（国際食料安全保障・食料危機など）、②環境（地球温暖化・森林・水資源枯渇など）、③健康（BSE・鳥インフルエンザなど）を対象分野として、関連する諸問題を解決し、持続共生を可能とするアジア農業戦略の立案と推進に貢献できる人材育成に向けた先駆的かつ共通性の高い国際連携教育プログラムを実施することである。

この背景には、食料・環境・健康を対象とした農業戦略問題は、東南アジア及び東アジア諸国間での連携なしには解決できない点があげられる。また、上記の問題解決には、正しい問題認識と科学的対応能力、倫理観・使命感をもち、国際の場で活躍できる高度実務者及び教育・研究者の育成が急務であることも重要である。

このため、国際交流協定を締結しているアジア4ヶ国（中国、ベトナム、フィリピン、韓国）の拠点5大学（中国農業大学、ノンラム大学、ハノイ農業大学、フィリピン大学ロスバニョス校、ソウル大学）と本学が密接な教職員コンソーシアムを形成し、種々の媒体を利用した居育プログラムを実施

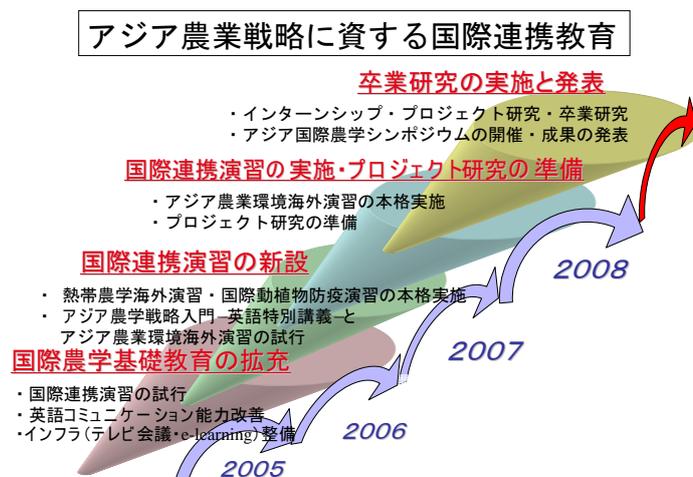


する。

4-3. 開発・実施する国際連携教育プログラムの内容

本事業が開発・実施する連携教育プログラムの具体的内容は以下のとおりである。

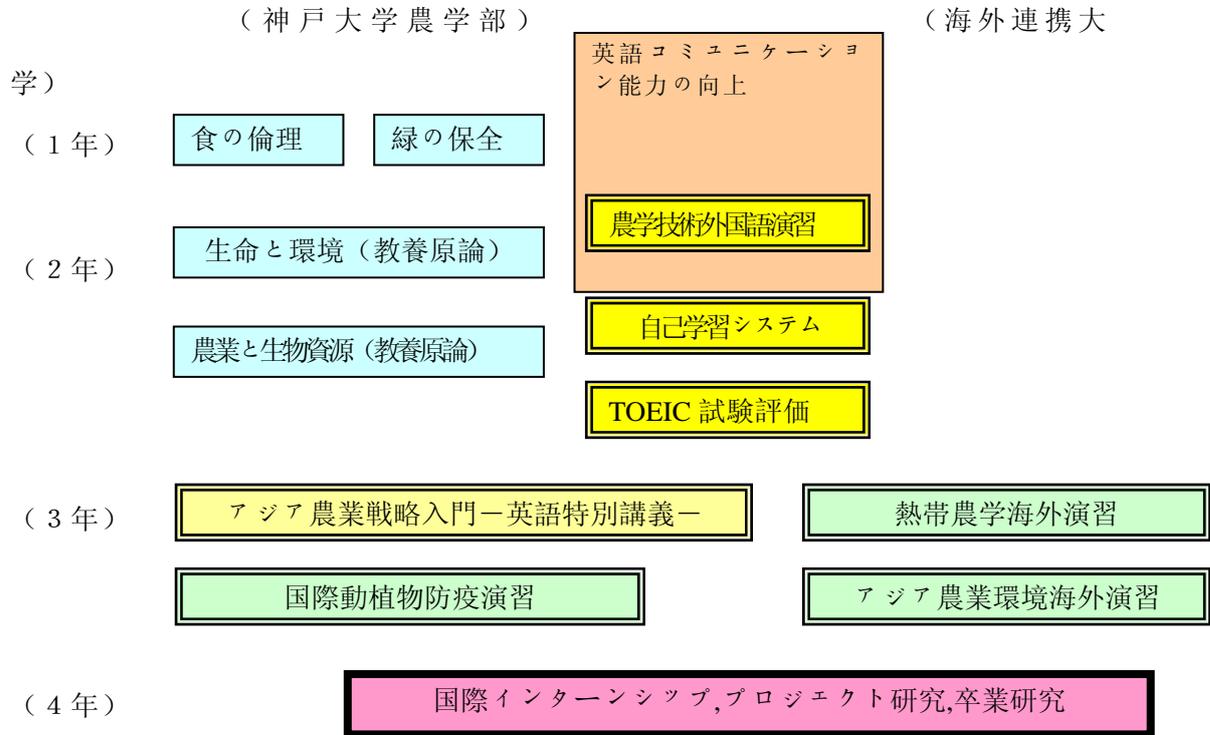
- 1) 「農業技術英会話演習」の開講、英語自己学習システムの導入と TOEIC による評価
- 2) 農業基礎科目である「生命と環境」及び「農業と生物資源」の英語教材の開発
- 3) 拠点5大学との共同による「アジア農業戦略入門—英語特別講義—」の実施
- 4) 英語による国際連携演習: 「国際動植物防疫演習(神戸大学農学部)」、「熱帯農学海外演習(ベトナム・ノンラム大学及びハノイ大学)」、「アジア農業環境海外演習(中国農業大学、ソウル大学、フィリピン大学ロスバニヨス校)」の実施(テレビ会議システムで同時配信)



- 5) WHO (マニラ事務所)、FAO (横浜事務所) 及び I R R I (比ロスバニヨス) 等との連携によるアジア農業戦略に関するインターンシップ、プロジェクト研究及び国際セミナーの開発
- 6) アジア農業戦略の構築に向けたアジア国際農学シンポジウムの開催

7) 国際研究機関への人材輩出と、次世代の国際人材ネットワークの形成

[教育カリキュラム]



4-4. 本事業実施によるアジア太平洋地域の大学教育研究への効果

以上のような教育プログラムがコンソーシアムに参加する各国の大学で実施されれば、教育プログラムの国際的な連携によって各国の教育の質の改善に貢献する。同時に、教育の国際化を通じたアジア太平洋地域での知的創造が促進され、食料の安全保障、地球環境保全、公衆衛生などを通じて地域の農業発展と経済発展に貢献する。

教育の質の改善に関しては、学生の目的意識と自主的学習意欲を向上させる効果があると同時に、拠点5大学教員の連携を通じて、教員の教育力を国際レベルにまで高めるFD (Faculty Development) にも波及効果が見込めると考えられる。本取組を修了した優秀な学生の大半は大学院に進学し、アジア農業戦略に関連深い高レベルの研究を行うこと、大学院修了後は、産官学界の国際的指導者となることが大いに期待できる。また、留学生の増加や国際共同研究の増加なども期待でき、国内外の国際化教育に強い波及効果をもたらすと考えられる。

さらに、本事業のような国際的な連携の下での教育プログラムの実施によって、アジア拠点5大学の教員と本学教員との間での連携と学術的な交流が深まり、問題解決を要する重要課題についての共通認識の下、国際的な共同研究の基本的な条件を整えることが期待され、アジア太平洋地域の知的創造に貢献しうる。可能性の高い共同研究のテーマには、例えば以下のようなものが考えられる。

- ・ 世界的な需要構造が激変する食料についての国際食料安全保障
- ・ 食料危機に対応する農業生産改善など方策
- ・ 農業を通じての地球温暖化・森林・水資源枯渇などの環境問題への対応
- ・ BSE・鳥インフルエンザなどのへのバイオ技術による対応
- ・ 食料、環境、流行性の病気などの地域における問題に対する域内の国際協力

こうした共同研究に対しては、当然、とくに日本と中国の大学・研究機関が主導的な役割を發揮し、研究を推進していくことが可能である。

また、こうした教育コンソーシアムによる教育プログラムを修了した優秀な学部学生に対しては、自国のみならずメンバー国への大学院進学を奨励することで、優秀な人材を育成することが可能となり、地域の大学間の学術交流協定の実質化が図れることになる。こうした大学教育における教育の国際連携は、アジア太平洋地域の教育の国際化を推進する一つのモデルとなり得る。また、農業教育におけるアジア諸国との連携は、食糧安全保障、環境、疫病対策における国際貢献という社会的効果が期待できるとともに、地域の国際協力の一つの核となるものであり、地域の経済発展にも貢献できるといえる。

付録 「神戸大学東アジア Week 2006～東アジア 共鳴と共生～」のプログラム

【11月13日】

◎講演会「孫文と神戸」 安井三吉 神戸華僑博物館研究室長・神戸大学名誉教授

◎中国古筝二胡演奏 蔡 愛琴

【11月14日】

◎韓国海洋大学校練習船 「HANBADA 号」神戸寄港式典

◎学生参加企画 東アジア地域への留学案内

留学体験報告会

国際学生討論会「東アジアにおける共生のための私たちの役割」

【11月15日】

◎シンポジウム「東アジア地域の食の安全安心科学に資する国際フォーラム」

基調講演「中国における農産物の安全」Dr. JIANG Shuren, China Agricultural University

基調講演「韓国における食の安全に関する教育研究」Dr. LEE Jun-Jae, Seoul National University

基調講演「食の安全安心に関する展望と課題」Dr. Reynaldo MABESA, University of Philippines

基調講演「食品由来感染症早期発見のための国際協力」渡邊治雄国立感染症研究所副所長

パネル「東アジア地域の食の安全安心のための戦略」

Dr. Candida B. ADALLA, University of Philippines

Dr. LEE Yong-Hwan, Seoul National University

湯川剛一郎農林水産消費技術センター理事

◎討論会「大学の国際化を考える学長討論会」

野上智行 神戸大学長、展 濤 山東大学校長、金順甲 韓国海洋大学校長

【11月16日】

◎シンポジウム「日中経済・経営関係の新たな展開～BRICsの台頭と日中関係の変化」

西島章次 神戸大学理事・副学長

顧 国達 浙江大学経済学院教授

佐藤隆広 大阪市立大学経済学部助教授

コメント：張乃麗 山東大学経済学院助教授

林忠吉 神戸国際大学経済学部教授

司会：黄磷 神戸大学大学院経営学研究科教授

◎シンポジウム「村上春樹@東アジア ～春樹は東アジアの「要石」になりうるか～」

パネル「春樹を読む“場”」 林少華 中国海洋大学外国語学院日語系教授

金春美 高麗大学日語日本文学学科教授

パネル「春樹がアジアを見る眼、アジアが春樹を見る眼」

白雲開 香港教育学院中文学系助教授

飯田祐子 神戸女学院大学文学部総合文化学科助教授

【11月17日】

◎シンポジウム「東アジアの情報通信を考えるシンポジウム」

基調講演「情報通信で結ぶ21世紀のシルクロード」

查紅彬 北京大学情報科学技術学院副院長教授

パネル「東アジアにおける情報通信技術の展望」

